

高校におけるJSLカリキュラムの試み

— 数学A・保健・英語と連動させて —

小川 郁子 (東京都立高等学校 地歴・公民科 講師)
坂本 昌代 (東京都立高等学校 国語科 講師)

問題の所在



ちゃんと勉強したい!
でも、日本語が難しく授業が分からない

それなら、国語と社会以外の教科でも
やさしい日本語で学んでみましょう!



実践の場

- ・都立の三部制定時制高校
- ・3教科入試
- ・アクセスが良い

日本語の
不十分な
生徒が集まる

対象者

滞日期間：半年～4年(入学時)
出身国：中国、フィリピン、ネパール、インド
※夏休み期、2・3学期の日本語補習の時間(単位外)を使い、取り出し指導対象者から希望者をつのり実施

1年生	在籍数	取出対象数
午前部	91	9
午後部	95	8
夜間部	62	7
合計	248人	24人

2年生	在籍数	取出対象数
午前部	89	4
午後部	67	6
夜間部	40	3
合計	196人	13人

1年午前部の時間割

		月	火	水	木	金
1	8:45-9:30	数 I	数/英	数 I	国総	現社
2	9:35-10:20		保健	英 I		
3	10:40-11:25	英 I	芸術	LHR	理科	体育
4	11:30-12:15			総合		

午前 20単位 (必履修)

午後 4単位 (選択)

合計 24単位を履修

国語総合と現代社会は
取り出し指導あり

物理・化学・生物・地学
から選択

日本語文法、漢字と語彙、
数学Aなどから選択

実践内容

教科

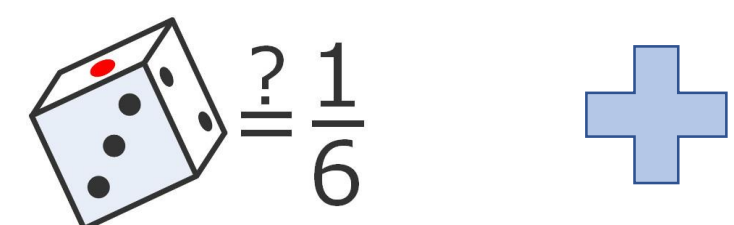
日本語

ゴール

数学A「確率」

目標：確率の考え方がわかる

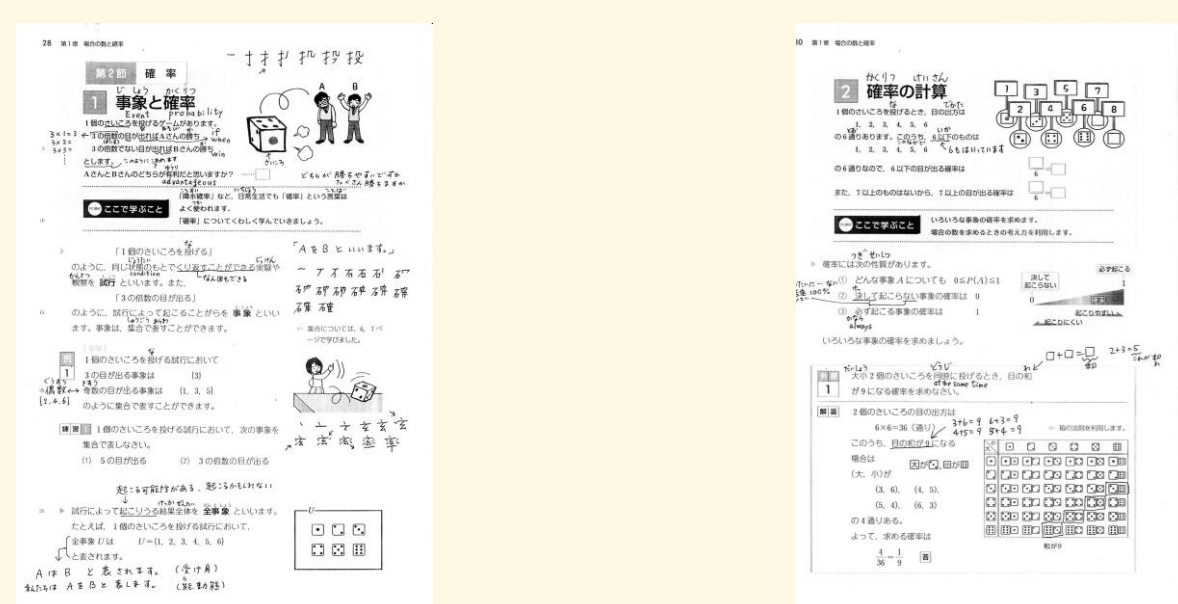
- ・概念：ことがらの起こりやすさ
- ・語彙：試行、事象、集合、n通り



- ・語彙：さいころ、目、出方、硬貨、表、裏、よって、起こりうる、おのおの
- ・文型：S1ば、S2。S1とき、S2。

問題を解く

数学の文脈で日本語を使う
日本語で数学を考える

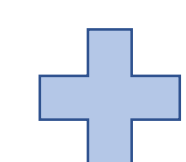


- ⑤ 語彙を確認しながら教科書の説明を丁寧に読んだら、初めて数学の授業で何を学んでいたのかが分かった。
- ⑦ 日本語で意味が説明しきれない部分は、理解の速い生徒が母語で説明してくれた。

保健「食事と健康」

目標：健康的な食事をする

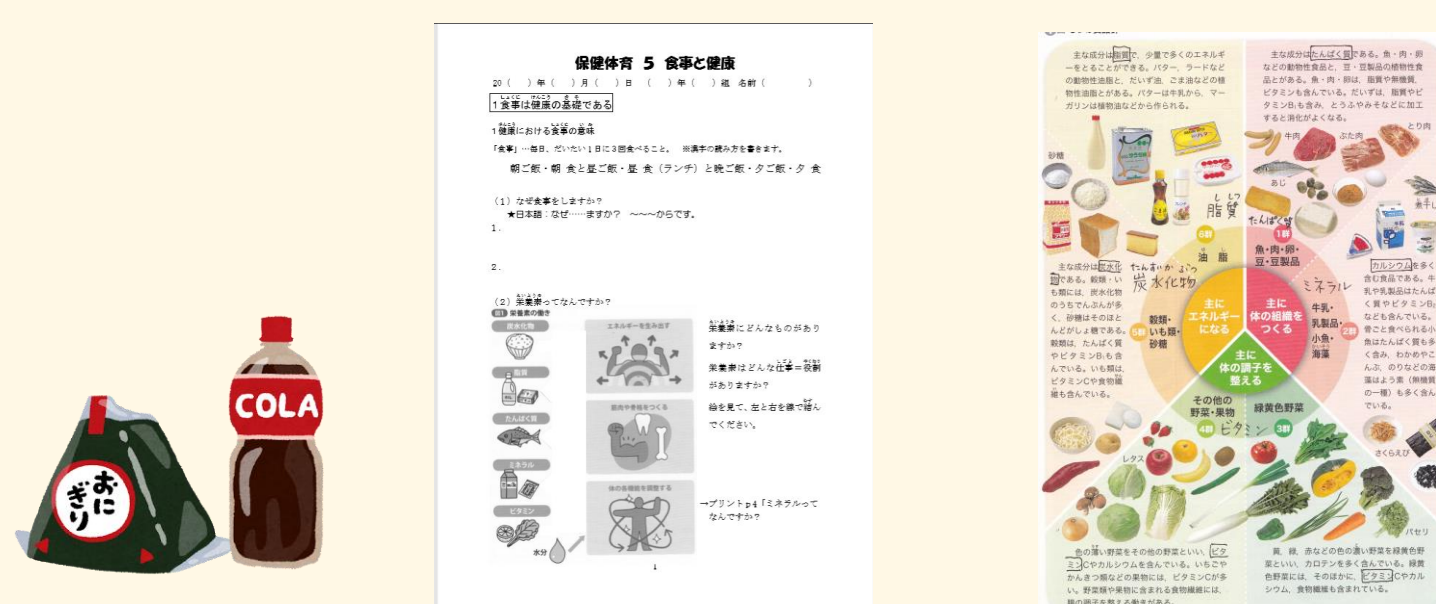
- ・栄養素のはたらきを知る
- ・よい食生活について考える



- ・文型① ～からです(理由の説明)
- ・文型② S1と、S2。
- ・語彙：タンパク質、ミネラル・・・、太る/やせる、Vすぎる、食品名

生活改善

自分の毎日の食生活で不足する栄養素と補充法がわかる
→実践する

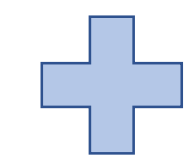


- ⑦ 食品名や、それがどんなものか知らない生徒には、まわりの生徒たちが説明してくれた。
- ⑦ 生徒たちの日頃の食生活の状況を知った。

abc 英語「奇想天外な浮世絵師」

目標：日本語の受け身を学ぶ

- ・動詞活用：V(ら)れる
- ・文型① __は__(によって)・・・される
- ・文型② __は__が・・・する

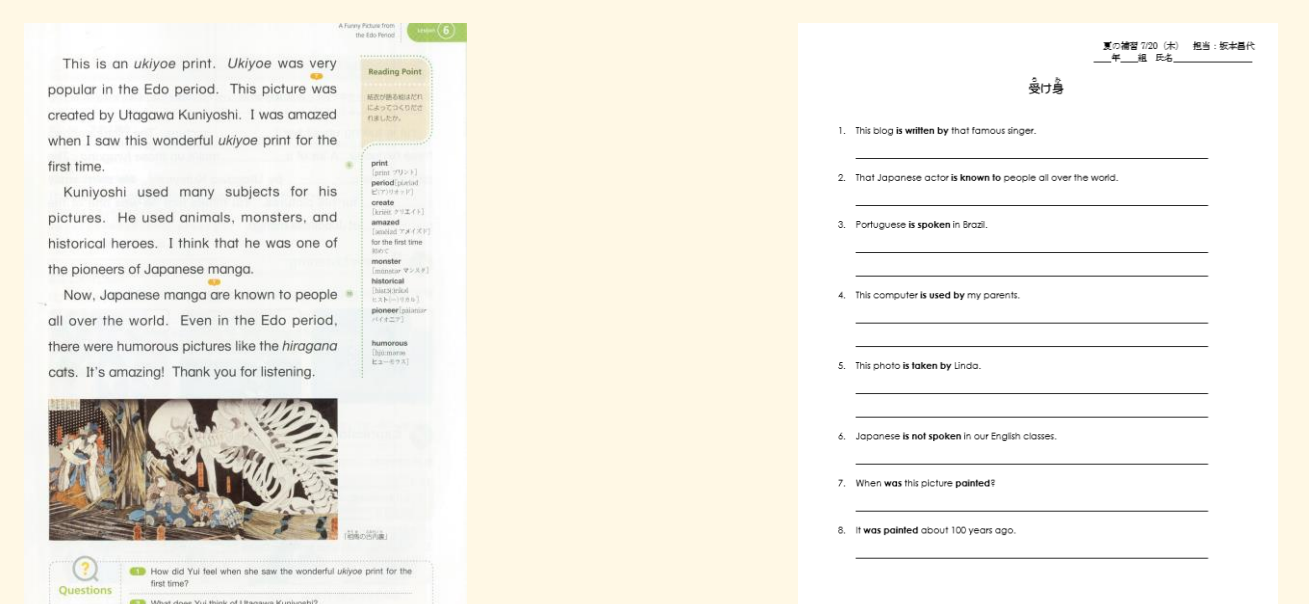


英語のテキストを理解するには
背景となる文化知識が必要

- ・浮世絵について
- ・世界の有名な建物や絵画など



受け身文を和訳・英訳をする
言語によって
何を受け身で表現するか



- ⑦ 英語力はあっても日本語力の低い生徒は、理解を深め英語につながれた。
- ⑦ 中学英語がわからない生徒がいた。英語での理解にはつながらなかったが、「教科書の日本語訳読解」を通じ、学んでいる内容を知ることができた。

成果と課題

- 高校JSLの可能性
- 学び合いの効果
- 生徒たちへの意識づけ
- 教科教員との連携
- 関係者の理解を進める

語彙は難解だが、基本をおさえるならば、日本語との統合学習は十分に可能である。
日本語力、教科の学力、日本の生活事情についての知識に差があっても、学び合いが展開できた。
補習で学んだ内容を、どう在籍学級の授業につなげ、学びに活かすか、説明が十分ではなかった。
連携のきっかけは作れた。補習での学びの成果を在籍学級の授業や定期考査にどうつなげるかが今後の課題。
高校関係者がJSLについて学ぶ機会をつくる。

こうした試みを積み重ね、高校でもJSLカリキュラムに対する理解を広げていきたい